

戦争と国家、そしてナショナリズム

福田 宏 hfukuda@juris.hokudai.ac.jp

<http://hfukuda.cool.ne.jp/hokudai04a/>

(法学部 321 号室・706-3784)

(相談時間： 6/10(木) 15 時～17 時)

I. 次回の指定文献 (6/11)

- ・ マイケル・イグナティエフ, 中山俊宏訳『軽い帝国 — ボスニア、コソボ、アフガニスタンにおける国家建設』風行社, 2003, 1900 円. 入荷済み
(この本を読むうえでのポイント)
 - ・ 「限定主義」における「正戦」「人道的介入」とは？
 - ・ 「リベラル・デモクラティック・インターナショナリスト」の議論
 - ・ ユーゴ紛争についての事例研究を兼ねる
 - ・ アメリカ、そして国連は何をすべきか？
 - ・ 日本外交のあり方について → 詳しくは次々回にて (6/18)

II. 戦争報道を考えるための推薦文献

- ・ ジョン・ストーバー, シェルドン・ランプトン著, 神保哲生訳『粉飾戦争 —— ブッシュ政権と幻の大量破壊兵器』インフォバーン, 2004.

III. 前回の討論に関連して —— 「メディア・コントロール」

- ・ 討論をする為にはどのぐらいの知識が必要なのか？
- ・ 「無知の知」とは？ —— ソクラテスの問答法
- ・ 事実を知るとのこと —— 記憶と表象
- ・ インターネットはオールタナティブ・メディアとなり得るか？
 - ・ 北大図書館: <http://www.lib.hokudai.ac.jp/opac/>
 - ・ 全国図書館蔵書検索 Webcat Plus: <http://webcatplus.nii.ac.jp/>
 - ・ 国立国会図書館 (雑誌記事索引): <http://opac.ndl.go.jp/>
 - ・ Google: <http://www.google.co.jp/>
 - ・ マル激・トーク・オン・デマンド: <http://www.videonews.com/> (神保哲生・宮台真司)
 - ・ 2ちゃんねる???

IV. トドロフ『イラク戦争と明日の世界』に対する反論

1. 「静かなる大国」に必要な軍事力とは？

- ・ RMA (軍事革命 the Revolution in Military Affairs) 以降の軍事力
情報革命、サイバー攻撃の重要性、IDA サイクルの短縮

- ・アメリカとのギャップは埋められない？
「多様性の中の統一」と軍隊

2. ヨーロッパ・アイデンティティーは実在するか？

ヨーロッパはギリシアから始まる？ —— ギリシア神話の女神エウロパ
『黒いアテネ Black Athena』(1987) の衝撃

E. サイドによる「オリエンタリズム」批判の流れ (1978)

『ヨーロッパの歴史』(仏語版 1992) —— 新たな「国民国家」の構築？

... 私はたまたま、イギリスと人と同時にフランス人として、さらにはノルウェー人として生まれました。... 私は完全に一つの国に属していなかったため、しばしばイギリス人やフランス人の同級生たちから猜疑の眼で見られたという体験を持っています。「百年戦争」、「スペイン継承戦争」あるいは「ナポレオン戦争」について、どちらの側に立てばよかったですか？

... しかし、国民という観念はたかだか数世紀の歴史を持つにすぎません。その確立に当たって、またときに国民意識の変質において、本質的役割を演じたのはしばしば教育でした。歴史は、かつて国家の建設において果たしたときに匹敵する役割を、今日のヨーロッパの建設において果たすことができるでしょうか？ (『ヨーロッパの歴史』編者フレデリック・ドルーシュによる序文、日本語版より)

3. ヨーロッパ・ナショナリズム(?)の危険性

ヨーロッパ的多元性に潜む排他性 —— ユーロ・セントリズム

フランスのマグレブ人、ドイツのトルコ人

辺境であるが故のナショナリズム？

ブルガリア出身のトドロフ、チェコ出身のミラン・クンデラ「誘拐された西欧」

4. [補足] ナショナリズムとは？ —— フランスを例として

「想像の共同体」=「国民」はいつ誕生したのか？

凱旋門の下に置かれた無名戦士の墓

出版資本主義 —— 一日限りのベストセラー「新聞」

役人の「巡礼」 —— 国家の空間的広がりを「想像」する！

ナショナリズムと近代化

産業革命の衝撃 —— 労働者の技術と読み書き能力、工場の規律

国民教育の整備と国民の歴史

国民軍の誕生 —— 「お国のために死ぬ」